

# 大野市重点道の駅

「(仮称)結ゆいの故郷くに」

## 全体計画



越前おおの

平成28年6月

大野市

# 目次

<b>1</b>	<b>道の駅整備の目的と意義</b>	<b>3</b>
<b>2</b>	<b>道の駅のコセプト</b>	<b>8</b>
<b>3</b>	<b>導入機能の基本方針</b>	<b>10</b>
<b>4</b>	<b>導入機能と導入予定施設</b>	<b>11</b>
<b>5</b>	<b>導入予定施設の整備方針</b>	<b>13</b>
<b>6</b>	<b>建設予定地・ゾーニング計画</b>	<b>24</b>
<b>7</b>	<b>施設配置計画</b>	<b>26</b>
<b>8</b>	<b>空間計画・意匠計画</b>	<b>28</b>
<b>9</b>	<b>管理運営の基本方針</b>	<b>29</b>
<b>10</b>	<b>整備の基本方針</b>	<b>31</b>
	<b>参考資料 全体計画の策定の経緯等</b>	<b>33</b>

## 【 大野市重点道の駅「（仮称）結の故郷」の呼称について 】

この全体計画では、『道の駅「結の故郷」』と呼称します。

## 【 中部縦貫自動車道の建設中インターチェンジ名称について 】

この全体計画では、未供用中のインターチェンジ名称は全て仮称とします。

# 1 道の駅整備の目的と意義

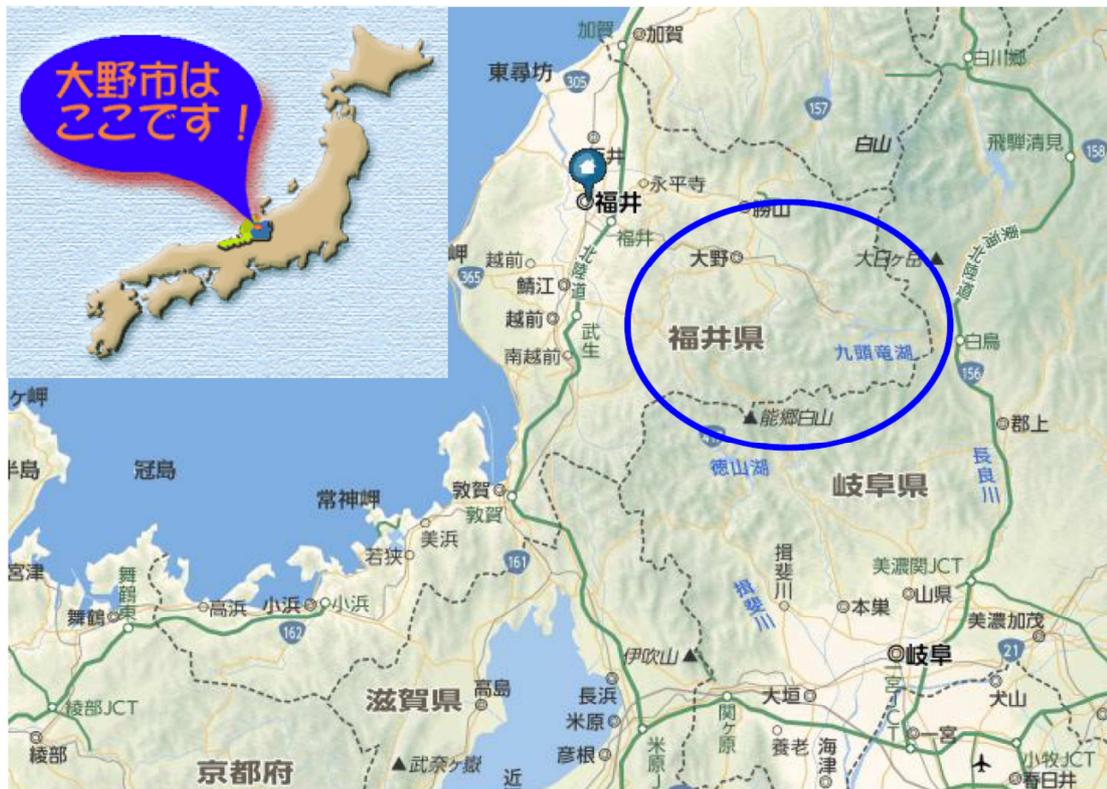
## (1) 道の駅整備の目的と背景

### ① 大野市の立地条件

福井県大野市は、県の東部に位置し、北は石川県白山市と勝山市、東と南は岐阜県高山市・郡上市・関市・本巣市・揖斐川町、西は福井市と今立郡池田町に接しています。

かつて本市を經由して越前の国(福井)と美濃の国(岐阜)を結ぶ街道は「越前街道」「美濃街道」と呼ばれ、国境を越えて交流が盛んに行われ交通の要所でありました。

現在においても本市は、国道157号が南北に、国道158号が東西に走り、特に中部縦貫自動車道は、東は東海北陸自動車道、西は北陸自動車道に連結し、太平洋側と日本海側を繋ぐ東西軸の要として重要な位置にあると考えます。



### ② 大野市の状況

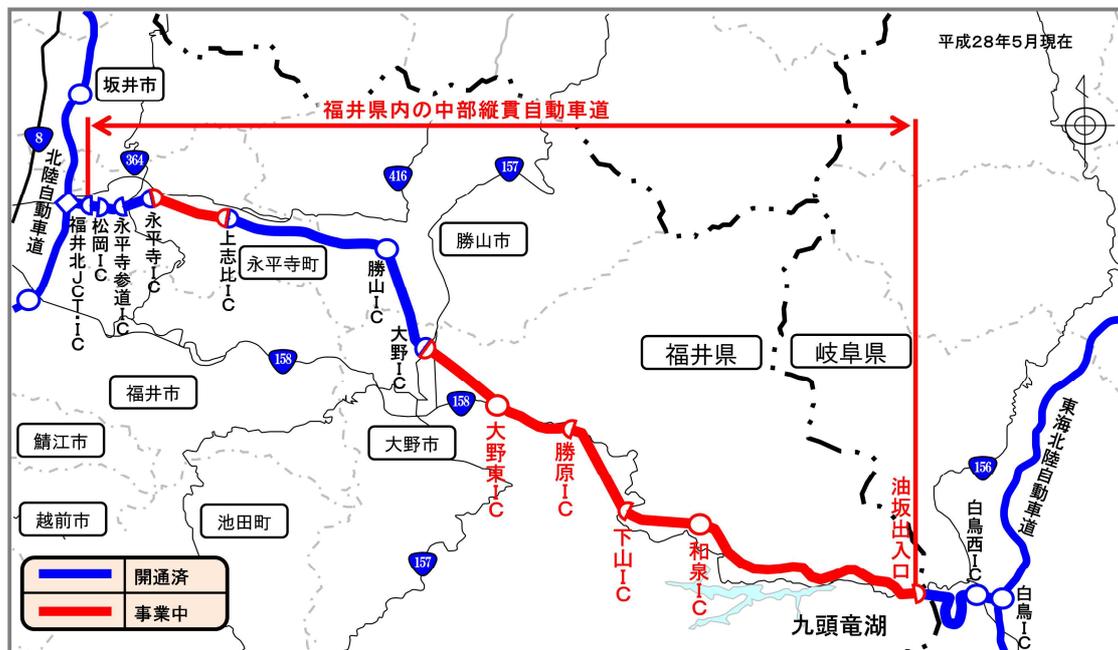
大野市では、第五次大野市総合計画で平成32年度までに掲げた目標人口32,000人の達成に向けて、各種の取り組みを進めていますが、人口減少に歯止めがかかっておらず、自然減・社会減の状況が続いています。

このような状況の中、地域の活力を支えていくには、ふれあい交流人口<sup>※1</sup>の増加が必要となります。人、歴史、文化、伝統、自然環境、食等の地域資源を磨きつつ有機的に連携させ、中部縦貫自動車道の社会基盤が整うことで、観光客の大幅増を見込み、第五次大野市総合計画において目標ふれあい交流人口を38,000人と設定しています。

※1 ふれあい交流人口：大野市の人口に1日当たりの大野市外からの来訪者数を加えた人数

### ③ 中部縦貫自動車道の整備

中部縦貫自動車道は、福井県と関東圏を最短距離で結び、北陸圏、関東圏、中京圏、関西圏を結ぶ広域ネットワークを形成する重要な道路であり、その開通によって福井県の東の玄関口として観光客の増加が期待でき、新たな周遊観光ルートや安定した物流ルートの構築が図られ、交流人口の増加や企業誘致などによる地域振興が見込まれます。

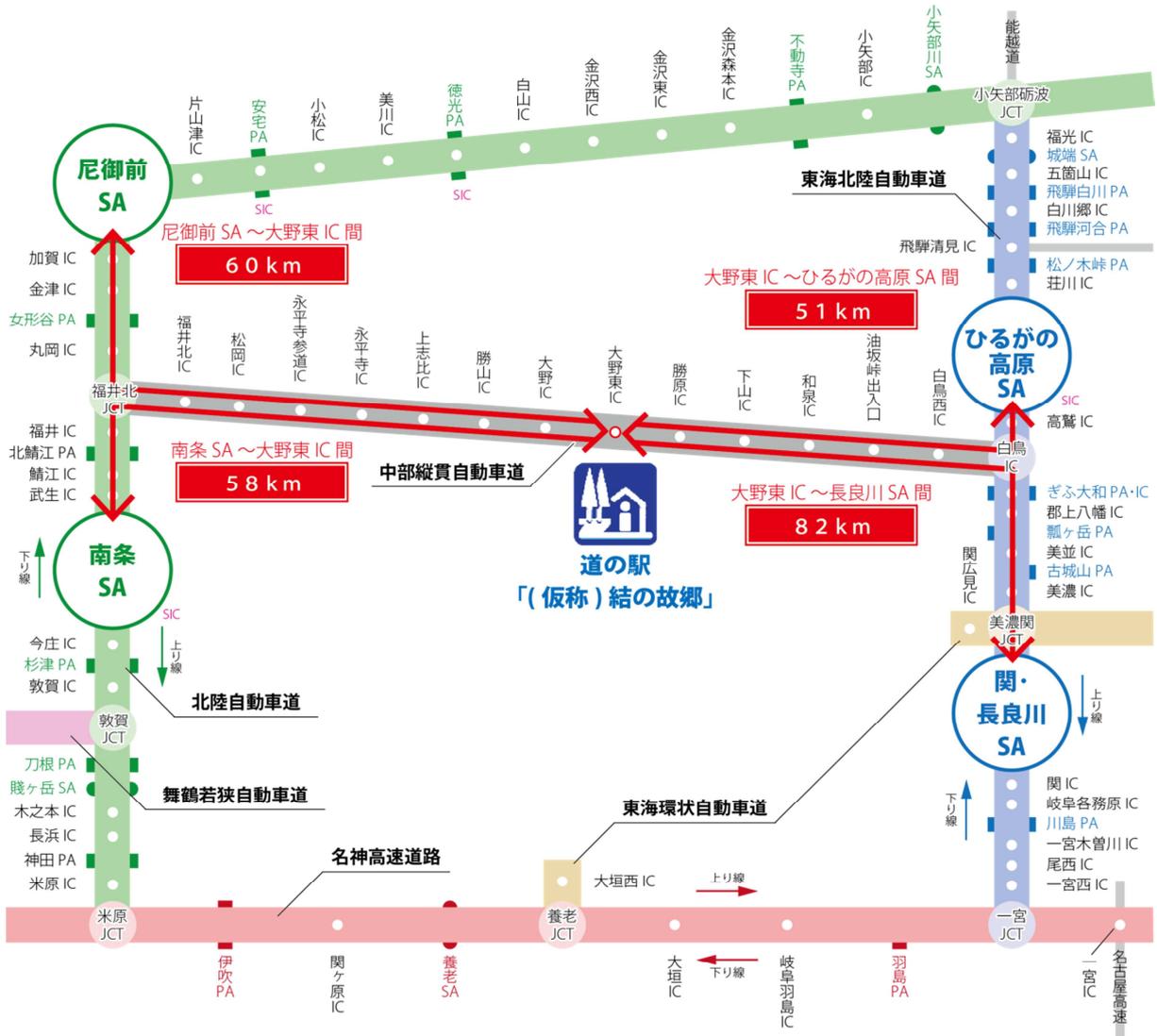


### ④ 道の駅整備に至る経緯と目的

大野市では、平成24年2月に「越前おおのまるごと道の駅ビジョン」を策定し、大野市が誇る魅力ある地域資源を磨き上げ、地域情報の発信を市内各地で行い大野市全体を「まるごと道の駅」として位置付け、全国に誇ることができる魅力ある「越前おおの」を目指しています。その実現に向けて、北陸自動車道と東海北陸自動車道を結ぶ中部縦貫自動車道の開通を見据え、本道路のほぼ中間に位置する大野東インターチェンジ付近にサービスエリア※としての機能を有し、道路利用者を市内へ引き込むという「まるごと道の駅」の核となる施設を整備します。



※ 道の駅「結の故郷」と北陸自動車道や東海北陸自動車道のサービスエリアとの位置関係



⑤ 道の駅「結の故郷」の目指すべき方向性

道の駅「結の故郷」では、「越前おおの」の魅力ある様々な地域資源に関する情報を提供し、積極的に市内への誘客を図り、ふれあい交流人口の拡大につながる拠点とします。

大野市は、地理的条件や位置的条件に加え、南海トラフ巨大地震の被害を想定し、支援・受援活動を行ないます。また、原子力発電所から30km圏外となっていることから、今後起こりうる大規模災害に対し、東名・名神高速道路等の太平洋側の高速交通体系が分断された場合も想定し、ヘリポート等を設置することにより、救援活動や災害ボランティアの支援活動、支援物資の搬入の拠点となる広域防災拠点の機能を付加するとともに、福井県が整備した奥越広域防災基地をはじめとする各防災基地と連携することにより防災力向上を図ります。

以上のことから、従来の道の駅の機能に加え、福井県の東の玄関口となり地域外から大野市内へ人を呼び込む「ゲートウェイ型」の道の駅を目指します。また、大野市の文化・伝統等といった「結の故郷 越前おおの」のブランド化を図るとともに、大規模災害に対応した広域的な防災拠点としての機能を有した「プレミアムの道の駅」を整備します。

## (2) 道の駅整備に関する上位・関連計画等

### ① 第5次大野市総合計画

#### 後期基本計画（平成28年3月策定）

大野市の将来を展望し、まちづくりの目標と方向を明示した最上位の計画であり、長期的・総合的な市政運営の指針となる計画です。

- 基本施策：中部縦貫自動車道の整備促進
- 施策：「越前おおのまるごと道の駅ビジョン」の核となる施設の整備



### ② 越前おおのまるごと道の駅ビジョン

#### （平成24年2月策定）

中部縦貫自動車道の開通を見据えて全国に誇ることができる魅力ある越前おおのを実現するため、様々な地域資源を「市民力」と「地域力」で磨き上げ、大野インターチェンジから大野東インターチェンジ間の道の駅を「まるごと道の駅」の核として活用し、中部縦貫自動車道の利用者が市内を回遊したくなる越前おおののイメージを描いたビジョンです。



### ③ 重点道の駅選定（平成27年1月）

国土交通省では、「道の駅」を経済の好循環を地方に行き渡らせる成長戦略の強力なツールと位置づけ、関係機関と連携して特に優れた取組を選定し、重点的に応援する取組を実施する制度を平成26年度に設けました。

この制度において、平成27年1月に道の駅「結の故郷」が「重点道の駅」として全国35箇所の中の1箇所として選定されました。

なお、平成28年5月現在では、「重点道の駅」は全国で73箇所が選定されています。

#### ④ 大野市総合戦略（平成 27 年 10 月策定）

大野市総合戦略は、人口減少対策や地域創生に戦略的に取り組んでいくことを目的に策定した計画です。

当戦略の5つの施策の方向性の一つである「新しいひとの流れをつくる」を達成するための重点事業として、道の駅「結の故郷」を位置づけており、訪れたいくなる環境の創出に寄与します。



## 2 道の駅のコンセプト

### (1) 道の駅の拠点コンセプト

各機能を有しているだけの受動的な道の駅から、能動的な活動によって、人・時・地域を結び道の駅自体が拠点化を目指すため、次のとおり拠点コンセプトを定めます。

## 人を結び、時を結び、地域を結ぶ 「結の心と文化」肌で感じる 「結の故郷 越前おおの」

※「結」という言葉は、昔の村の生活において、田植えや稲刈り等の農作業、狩猟や植林等の山仕事、道路を直したり橋を付け替えたりなどの修繕、その他冠婚葬祭等のいろいろな仕事をお互いに助け合う習慣を指す。

#### ① 人を結ぶ・・・大野人と観光客、観光客とおしの交流が多く創出できる拠点

中部縦貫自動車道は、北陸圏、関東圏、中部圏、関西圏を結ぶ広域ネットワークを形成する道路であり、物流ルートや周遊観光ルートとして様々な道路利用者が休憩し、必要な道路情報等をリアルタイムに入手することができる『立寄り拠点』としての役割を担います。

また、福井県の東の玄関口を担うため、「道の駅」において、大野市の四季を感じとりながら、リアルタイムの情報等を基に利用者が、大野市内の地域資源を巡る『観光周遊拠点』としての役割を担います。

これにより、「大野人」「歴史・文化・伝統」「自然環境」「食・地場産業」など大野人のおもてなしの心、守り伝えてきた文化・伝統、四季や里山の魅力、里の味と技といった「結の故郷」のブランド情報発信(観光情報等を含む)、市内の駐車場状況と道路情報等をリンクさせた市内の『情報発信拠点』や『交通結節点』としての役割を担います。

#### ② 時を結ぶ・・・時代や世代を超えた体験や文化伝承し交流が多く創出できる拠点

守り伝えてきた文化・伝統、四季や里山の魅力、里の味と技といった大野市の地域資源を生かした日本らしさを取り戻せる体験や父母と子、祖父母と孫のように、世代を超えて家族が1日楽しめる『文化伝承拠点』として役割を担います。

#### ③ 地域を結ぶ・・・越前おおのと他地域との交流が多く創出できる拠点

越前の国(福井)と美濃の国(岐阜)を結ぶ「美濃街道」の結末点として、地域との交流を増やし、地域間交流が多く創出できる『交流促進拠点』を担います。

また、お互いに助けあう「結の心」で、近年起こりうる想定される南海トラフ巨大地震等、大規模な災害が発生した際に、災害の規模や被災地のニーズに応じて、円滑に応援・受援体制を整えられるよう、応援機関の活動拠点や応援要員の集合・配置体制や資機材等の集積・輸送体制等について、近隣の地方公共団体と連携し、広域的な活動が可能となる『広域防災拠点』としての役割を担います。

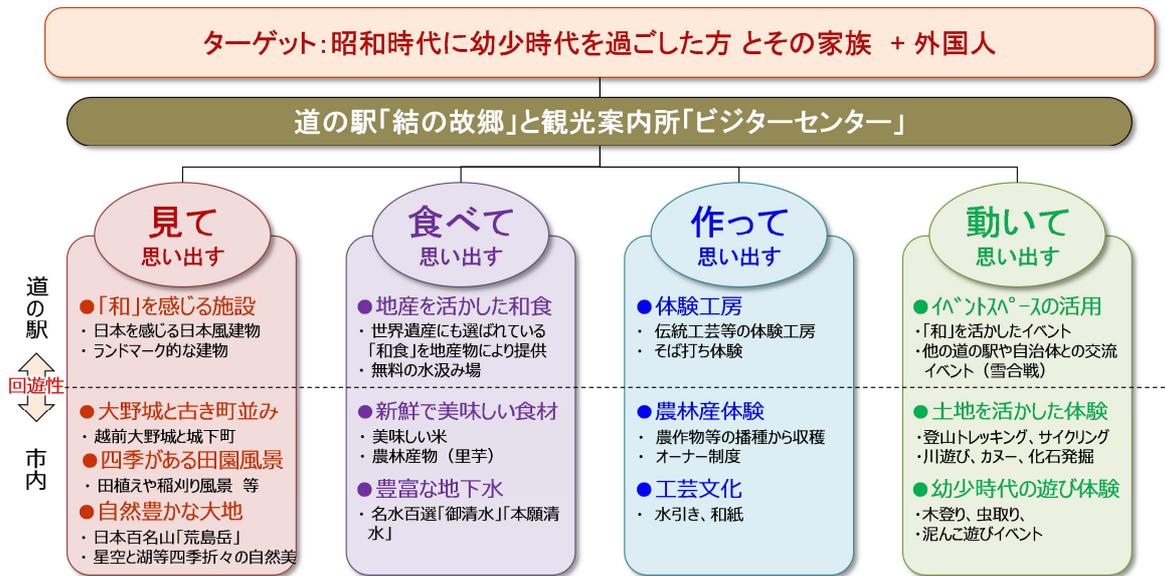
**(2) まるごと道の駅ビジョンの実現に向けた空間コンセプトとターゲット**

まるごと道の駅ビジョンの実現に向け、道の駅「結の故郷」に対する統一感のある空間コンセプトを「結の心と文化」と定め、道の駅に行くこと自体が目的となる『目的型』としてだけではなく、道の駅「結の故郷」では様々な体験を通じ地域へいざなう『回遊促進型』の道の駅を目指します。

多くの観光客に道の駅「結の故郷」を通じて、大野市内へ訪れてもらうよう、ターゲットを「昭和時代に幼少時代を過ごした方とその家族」と定め、大野市内の地域資源を用いて、「結の心と文化」を肌で感じて取り戻してもらいます。さらに、外国人観光客の方に、「越前おおの」で日本らしさを体感してもらいます。

結の故郷 越前おおので、日本人が忘れかけていた

**「結の心と文化」**を肌で感じて取り戻す



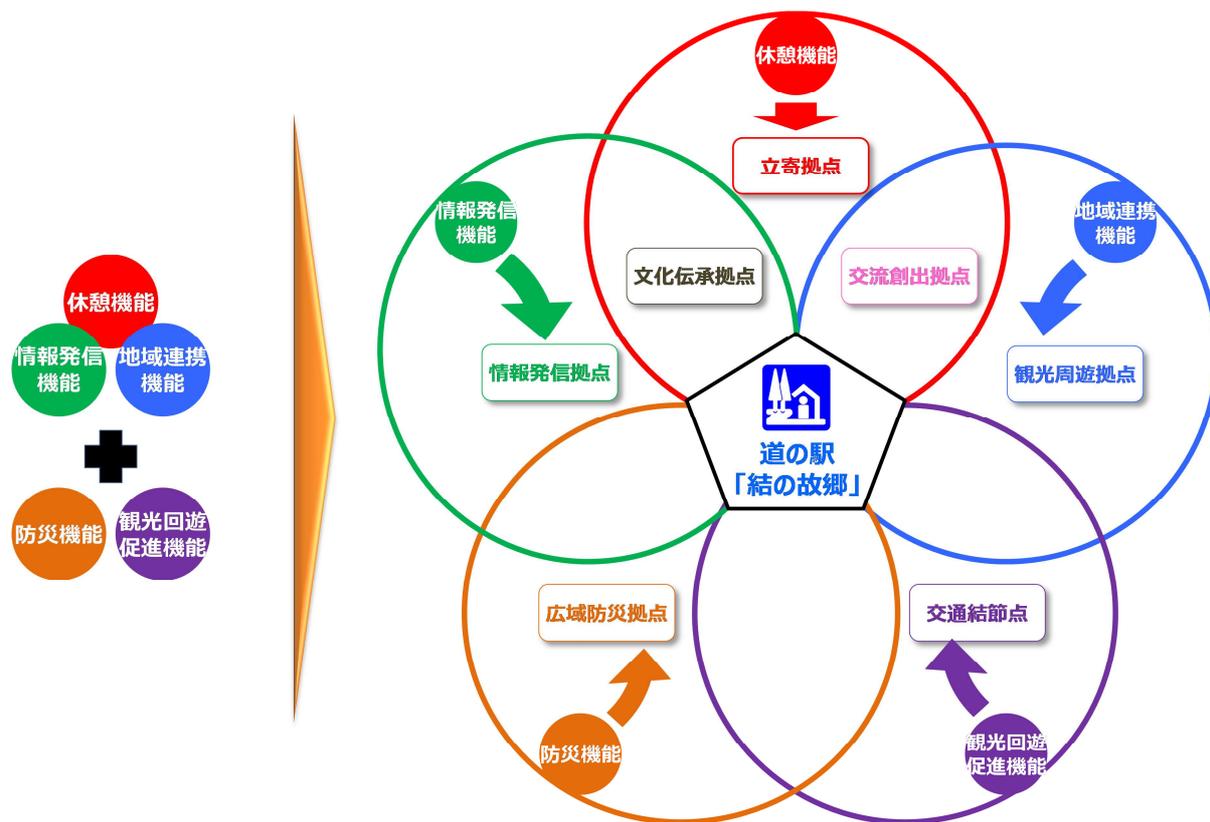
図表 1 まるごと道の駅ビジョンの実現に向けた空間コンセプト

### 3 導入機能の基本方針

「道の駅」は、道路利用者のための「休憩機能」、道路利用者や地域の方々の「情報発信機能」、地域が連携しながら地域づくりを行うための「地域連携(振興)機能」の3つの基本機能を有し、近年は、農業・観光・福祉・防災・文化等の地域の個性、魅力を活かした様々な取り組みがなされています。また、「通過する道路利用者へのサービス提供の場」から「地域の課題を解決する場」に成長し、「道の駅」第2ステージとして、関係機関と連携した様々な取り組みが展開されています。

大野市が検討している道の駅「結の故郷」は、従来の道の駅の3つの機能(休憩機能、情報発信機能、地域連携(振興)機能)を拡充するとともに、新たに市内観光を促進するための「観光回遊促進機能」と大規模災害に対応するための「防災機能」を追加し、各機能が密に連携し相乗効果を図ることにより、拠点コンセプトの実現を目指した能動的などこにでもない道の駅「結の故郷」を目指すものです。

以下に、道の駅「結の故郷」の機能を拡充して拠点化したイメージを示します。



図表2 道の駅「結の故郷」の拠点化イメージ

## 4

## 導入機能と導入予定施設

## (1) 導入機能と導入予定施設

以下に、道の駅「結の故郷」の導入機能と導入予定施設を示します。

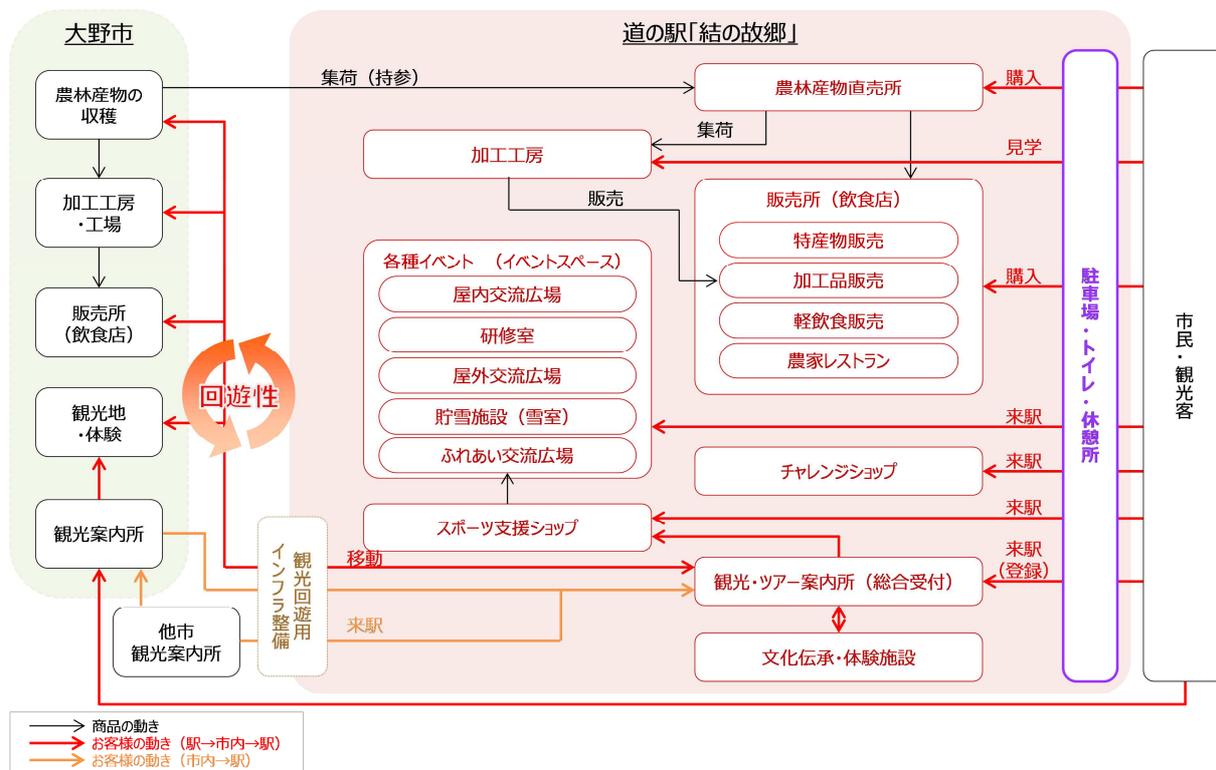
図表3 道の駅「結の故郷」の導入機能と導入予定施設

導入機能	導入予定施設等
休憩機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 駐車場</li> <li>■ トイレ</li> <li>■ 荒島岳等を見渡せる展望台</li> <li>■ 四季を感じる植樹</li> <li>■ 休憩所(休憩スペース等)</li> </ul>
情報発信機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 情報提供施設</li> <li>■ 結の故郷体験館・観光案内施設 (観光・ツアー案内所、文化伝承・体験施設)</li> </ul>
地域振興機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 特産物等販売施設 (農林産物直売所、加工工房・加工品販売所、特産物販売所、チャレンジショップ)</li> <li>■ 飲食施設 (農家レストラン、軽飲食販売所)</li> <li>■ 地域交流施設 (研修室)</li> <li>■ イベントスペース (屋内交流広場、屋外交流広場、貯雪施設、ふれあい交流広場)</li> <li>■ スポーツ振興施設 (スポーツ支援ショップ)</li> <li>■ ガソリンスタンド</li> </ul>
観光回遊促進機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ シャトルバス等停留所</li> <li>■ レンタサイクル</li> </ul>
防災機能 ※	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地域住民・道路利用者等の一時避難・受入施設</li> <li>■ 応急仮設住宅の建設用地</li> <li>■ 広域支援部隊の一次集結</li> <li>■ 緊急給油施設</li> <li>■ 救援物資の中継・分配スペース</li> <li>■ 物資等の備蓄施設</li> <li>■ ヘリポート</li> <li>■ 現地対策室用会議室</li> <li>■ 非常用発電機・太陽光発電等</li> <li>■ 災害用トイレ</li> </ul>

※ 防災機能については、各機能を有効に活用します。

## (2) 導入予定施設と回遊促進の仕組み

導入予定施設に対し、施設毎の連携を次のとおり示します。



図表 4 導入予定施設と回遊促進の仕組み

## 5 導入予定施設の整備方針

道の駅「結の故郷」における導入予定施設の整備方針は、道の駅に行くこと自体が目的となる『目的型』としてだけではなく、道の駅「結の故郷」での様々な体験を通じて、地域へいざなう『回遊促進型』の道の駅を目指します。

導入予定施設は次のとおりです。

### (1) 休憩機能

#### ① 駐車場

- 中部縦貫自動車道や周辺道路の交通量、イベント時の来場客数を勘案し、誰もが止めやすい、ゆとりある駐車スペースを計画します。
- 交通量に応じて「小型車」「大型車」「ハートフル対応型」「自動二輪車」の他、次世代自動車等のあらゆる交通手段の方も利用可能とするように駐車場を整備します。
- 安全確保のため、小型車と大型車が交錯しないように、可能な限り駐車スペースを分離するほか、利用者の安全を確保するため、歩行者の通行スペースを分離します。
- 「ハートフル対応型」の駐車マスについては、施設に近い位置に整備し、障害者等が主要な施設にアクセスできるよう計画します。また、悪天候でも移動が不便にならないよう、雨除け等を完備します。
- 太陽光発電等の自然エネルギーを使った照明を検討します。
- 四季のある風景を道の駅「結の故郷」で感じることで、市内の見所への回遊を促すよう植樹します。



歩行者の通行スペースを整備



ハートフル駐車場を整備

#### 【回遊性を促す工夫】

- ・シャトルバスやレンタサイクルで市内を観光して頂くために、長時間駐車可能な「回遊観光専用駐車場（仮称）」を整備します。

施設規模	小型車	約 4,221 m <sup>2</sup>	183 台 (小型車 169 台、ハートフル駐車場 4 台、自動二輪 10 台)
	大型車	約 2,709 m <sup>2</sup>	33 台 (大型車 24 台、大型バス 9 台)

※有事には防災機能として有効活用

## ② トイレ

- 道路利用者等が24時間利用できるトイレを整備します。
- 駐車規模に応じた便器数を計画したうえで、アクセス性を考慮し、分散配置します。
- オストメイト、パウダーコーナー、児童用、身障者用と多機能トイレを整備します。
- 明るく清潔で、夜間でも利用者が不安にならない施設を整備します。
- 車いす利用者や乳幼児を持つ子育て家族等、誰もが安心して利用できるよう配慮します。
- 節水、省電力による環境配慮型施設とします。



児童用トイレを整備



身障者用トイレを整備

施設規模	約357㎡	男性用:大9小12、女性用:大32、多目的トイレ:2
------	-------	----------------------------

※有事には防災機能として有効活用

## (2) 情報提供機能

### ① 情報発信施設・休憩スペース

- 中部縦貫自動車道に接続する北陸自動車道、東海北陸自動車道の自動車専用道路ネットワーク全体から見た休憩の機能を有した道の駅として整備します。
- 道路利用者が風景を眺めながら運転の疲れを癒したり、休憩しながら道路情報等を確認することができる休憩所を計画します。
- 道路利用者が必要とする道路や交通情報、天気情報、冬の雪道情報、災害情報、市内の駐車場情報等の情報をリアルタイムに提供する施設を計画します。
- 休憩所は、道路利用者が休憩して情報を得ることができるように、モニターやベンチ等を配置します。
- 道路情報提供施設として、掲示板、道路情報モニター、Wi-Fi機能等を配置します。



休憩施設を整備



情報提供施設を整備

施設規模	約140㎡	
------	-------	--

※有事には防災機能として有効活用

### (3) 地域振興機能

#### ① 特産品等販売施設

##### 1) 農林産物直売所

- 地産地消活動の中心的役割を担う道の駅において、市内で収穫された新鮮な農林産物の良さや安全性を発信し、生産の拡大を支援するため、農林産物直売所等を整備します。
- 販売拠点を確保することから、農林産物生産の拡大を支援し、一次産業の振興を図ります。
- 商品の購入やイベントを通じて、生産者と消費者の交流が図れるよう運営の工夫を行い、やりがいや生きがいを持って様々な活動が展開される地域づくりに寄与します。
- 市内で収穫された新鮮な農林産物を道路利用者等に手に取りやすい棚などを工夫し、生産者と双方向で販売が可能となる直売所を整備します。
- 生産者の顔が見える売り場づくりにより、新鮮な農林産物の良さや安全性を消費者に届けます。
- 旬の野菜や珍しい野菜にはレシピを添えて販売し、本市の進める食育活動につなげます。
- 出店者に販売動向をメール配信できるシステムの構築を検討します。



農林産物直売所イメージ



生産者の顔が見える売場を整備

#### 【回遊性を促す工夫】

- ・ 農林産物の生産者の顔が見えるとともに、生産過程などをPRしながら、農業体験等の案内を行います。

施設規模	約 225 m <sup>2</sup>
------	----------------------

※有事には防災機能として有効活用

##### 2) 加工工房・加工品販売所

- 地場産品に新たな魅力・付加価値をもたせるため、製品（加工品）を製造・販売するための施設を整備します。
- 加工作業する部屋はガラス張りなどとし、加工の過程が見学できるように工夫します。
- 地場産品に新たな魅力を付加した新たなご当地メニューの開発を検討します。



加工施設イメージ

#### 【回遊性を促す工夫】

- ・ 市内の類似加工品を紹介し、市内での消費を促進します。

施設規模	約 225 m <sup>2</sup>
------	----------------------

### 3) 特産物販売所

- 市内外の選りすぐった特産物を販売する施設を整備します。
- 市内の農林水産物や特産品だけでなく、伝統工芸品をはじめ木工品や陶芸品、手芸品等の手作り作品や福祉施設で製作された作品、さらに福井県内の特産品（菓子類・酒類・伝統工芸品等）の販売を行う施設を検討します。
- 市内の各地区のPRが可能なスペースを設けます。
- 営業時間や十分な在庫の確保等、利用者のニーズに即した運営体制を検討します。



お土産を販売するイメージ



地区別の特産物販売イメージ  
(高山市まるっとプラザ)

#### 【回遊性を促す工夫】

- ・市内の各地区のPRをすることにより、市内へ観光客を誘客するPRの場として活用することができるような工夫を凝らします。

施設規模	約 180 m <sup>2</sup>
------	----------------------

※有事には防災機能として有効活用

### 4) チャレンジショップ

- 出張販売や試験販売が可能とするスペースを整備します。
- 各店舗には、水道や電気等を整備します。
- 店舗は、日替り、週替り、月替りに入れ替えを行います。



チャレンジショップイメージ

#### 【回遊性を促す工夫】

- ・チャレンジショップから市内の店舗へ誘導する仕組みを検討します。

施設規模	約 88 m <sup>2</sup>
------	---------------------

## ② 飲食施設

### 1) 農家レストラン

- “越前おおのブランド”商品のPRを、「食」を通じて行うため、地産地消をテーマに、旬の野菜を使用したメニューを提供し、食育・健康志向に配慮します。
- 可動間仕切りを設置することで、個室空間としての演出を可能とするように整備します。
- 市民から募ったアイデア料理等、ここでしか食べられない食材を使ったメニュー提供を行います。
- 女性や子供向けの食事メニューの提供を検討します。



農家レストランイメージ

#### 【回遊性を促す工夫】

- ・地元食材による地産地消を促進し、大野市の魅力を訴求し、農村体験を促進します。

施設規模

約 294 m<sup>2</sup>

※有事には防災機能として有効活用

### 2) 軽飲食販売所

- 道の駅利用者が短時間で購入でき、持ち帰りができる手軽なフードコートを整備します。
- 複数店舗の軽飲食を提供し、気軽に休憩できるような施設を整備します。
- コーヒー等の飲み物のほか、地元の食材等を利用した特徴のあるメニューを提供します。
- 地元のもの食べられる施設・新たなご当地メニューの開発を検討します。



軽飲食施設イメージ

#### 【回遊性を促す工夫】

- ・地元食材による地産地消を促進し、大野市の魅力を訴求し、農村体験を促進します。

施設規模

約 100 m<sup>2</sup>

※有事には防災機能として有効活用

### ③ 結の故郷体験館・観光案内施設

#### 1) 観光・ツアー案内所

- 天気情報、観光地を案内する観光案内、大野市の地域情報・イベント情報、市内のお得情報等の各種パンフレット等を提供し、一体的に情報発信する施設（観光案内所）を整備します。
- 道の駅利用者と触れ合えるカウンターやパンフレット置き場、大型ディスプレイ等を整備します。
- 道路情報提供施設と連携した情報を発信するとともに、道の駅利用者が必要とする周辺地域の観光地やイベント、見どころ等の観光情報を提供します。
- 旬で細やかな地元ならではの情報を提供するため、コンシェルジュ（案内人）を常設します。
- わかりやすい観光マップ等の地図情報を提供するとともに、情報をペーパーレスで移動できるよう、QRコード等を活用した情報提供を検討します。
- ツアー企画の立案を行い、各旅行代理店等へ直接営業します。



観光案内所のイメージ



旅行代理店のイメージ

#### 【回遊性を促す工夫】

- ・タイムリーなイベント情報を提供し、市内への移動手段の案内や施設予約等を行います。

施設規模	約 200 m <sup>2</sup>
------	----------------------

※有事には防災機能として有効活用

#### 2) 文化伝承・体験施設

- 「結の故郷 越前おおの」の魅力や日本らしさを発信する施設を整備します。
- 農業体験や文化工芸体験、昔ながらの遊び等を伝承する施設を整備します。
- 大野市の「結の心と文化」を体験できる工夫を行います。



そば打ちの体験施設イメージ

#### 【回遊性を促す工夫】

- ・大野市内の魅力を感じることにより、現地を訪れたいようになるようはたらきかけます。

施設規模	約 300 m <sup>2</sup>
------	----------------------

※有事には防災機能として有効活用

#### ④ 地域交流施設

##### 1) 研修室

- 多様な市民交流の創出のために、多目的な使用ができる研修施設を整備します。
- 会議や屋内イベント、講座等 200 人規模の集会ができる施設を整備します。
- 施設管理者の主催行事だけでなく、利用者である市民の提案や主催により、利活用の幅が広がり、大野市全体の交流機能が高まるような施設運営に努めます。
- 可動式パーテーション(間仕切り)で、一つの部屋を分割して利用できるようにすることで、利用効率を高めます。



貸会議室のイメージ

施設規模	約 200 m <sup>2</sup>
------	----------------------

※有事には防災機能として有効活用

#### ⑤ イベントスペース

##### 1) 屋内交流広場

- 多様な市民交流の創出のために、建物内中央に、屋内イベントが可能な広場を整備します。
- 広場は、催事や展示品等を定期的に行うために、道の駅「結の故郷」内で受付を行います。
- 催事日程等を広報し、多くの来場者を増やす工夫を行います。



屋内でイベントができるスペースのイメージ

施設規模	約 300 m <sup>2</sup>
------	----------------------

※有事には防災機能として有効活用

##### 2) 屋外交流広場

- 天候に左右されず、幅広く利用できるようにするため、半屋外空間の創出を図ります。
- 屋外交流広場の周囲は、気軽に休憩や食事、イベント観覧等ができるように配慮します。
- 屋内交流広場との差別化を図り、多くのイベントを企画します。



屋根付きイベント広場のイメージ

施設規模	約 1,188 m <sup>2</sup>
------	------------------------

※有事には防災機能として有効活用

### 3) 貯雪施設（雪室・雪氷熱利用）

- 駐車場部等やふれあい交流広場の積雪を、雪氷熱エネルギーとして利活用する施設を設置します。
- 貯雪施設から夏場の建物内に冷気を取り込み、冷房設備として利活用に努めます。
- 大野市内で取れた農林産物や特産品等を貯蔵する雪室として活用し、新たな商品開発を行います。
- 雪室を見学・体験する施設として、新たな観光資源として提供します。



雪の貯蔵状況と見学通路



雪室の見学案内看板

施設規模	約 400 m <sup>2</sup> ∴
------	------------------------

### 4) ふれあい交流広場

- 地域間交流やスポーツ振興、観光客の誘客のために、広大なイベントスペースを整備します。
- 多種多様なイベント企画ができるような構造を検討します。
- 周囲の田園風景と調和した安らぎ・憩いの場となるよう、ゆとりある配置計画とします。
- 遊具の周囲には、遊ぶ子供たちを、家族や訪れた高齢者等が見守ることができるよう、ベンチやテラスを計画します。



ふれあい交流広場イメージ

施設規模	約 16,930 m <sup>2</sup> ∴
------	---------------------------

※有事には防災機能として有効活用

## ⑥ スポーツ振興施設

### 1) スポーツ支援ショップ

- 道の駅「結の故郷」を中心としたスポーツ振興を支援する施設を整備します。
- 利用受付カウンターやスポーツグッズの販売等を行う施設を整備します。
- 荒島岳登山等のアウトドアやふれあい交流広場でのスポーツに係る受付を可能とします。
- 更衣室やシャワーを計画します。
- ふれあい交流広場の利用受付や、更衣室やシャワーの利用等、スポーツ振興に寄与できるよう当施設で支援を行います。



スポーツ支援ショップイメージ

施設規模	約 316 m <sup>2</sup>
------	----------------------

※有事には防災機能として有効活用

## ⑦ ガソリンスタンド

- 北陸自動車道と東海北陸自動車道を結ぶ中部縦貫自動車道の無給油区間を解消し、高速ネットワークの向上を図るとともに、国道 158 号、地元の方々が利用する車の給油スタンドを整備します。
- 通常のガソリン・軽油・灯油以外に、道の駅「結の故郷」内にはEV等次世代自動車の補給手段を計画します。



ガソリンスタンドイメージ

施設規模	約 470 m <sup>2</sup>
------	----------------------

※有事には防災機能として有効活用

## (4) 観光回遊促進機能

### ① シャトルバス等停留所

- 市内への回遊性を促進するため、バスの停留所を整備します。
- 観光客の動線を優先し、建物前面に停留所を整備します。
- 観光客に対して大野市内や荒島岳の登山道への立寄りを促す施設として、シャトルバスを計画します。
- 東海北陸自動車道や北陸自動車道を経由した高速バスの誘致を計画します。
- 高速バスの停留所を設け、観光客を大野市の玄関口として市内への誘導を促します。



高速バス・シャトルバス停留所イメージ

## ② レンタサイクル

- 観光客に対して道の駅「結の故郷」周辺等市内観光を促す施設として、レンタル自転車を計画します。
- 観光客数に応じた自転車台数を整備します。
- レンタサイクルの利用促進を図るため、サイクリングロードや観光回遊ルートなどを記載した観光マップを計画します。



レンタサイクルのイメージ

## (5) 防災機能

### ① 地域住民・道路利用者等の一時避難・受入施設【情報提供施設、地域振興施設内等】

- 避難所等として利用する計画とします。
- 避難者が落ち着いた場合は、現地対策室として利用する計画とします。

### ② 応急仮設住宅の建設用地【小型車駐車場】

- 災害復旧が長期化した場合、仮設住宅用地等として利用する計画とします。

### ③ 広域支援部隊の一次集結【大型車駐車場、ふれあい交流広場】

- 広域支援部隊の大型車を想定し、大型車駐車場を一次集結スペースとして利用する計画とします。

### ④ 緊急給油施設【ガソリンスタンド】

- 応援部隊への給油や多方面への応援支援を行う計画とします。

### ⑤ 救援物資の中継・分配スペース【屋外交流広場】

- 救援物資の中継・分配施設として活用します。

### ⑥ 物資等の備蓄施設【備蓄倉庫】

- 災害復旧時の物資等を保管します。

### ⑦ ヘリポート【ふれあい交流広場】

- 救援ヘリやドクターヘリ等が利用するヘリポートを2機分整備します。そのうち1機は日本最大級のヘリコプターが着陸できるように整備します。
- ヘリポートと地域振興施設の間に、緊急車両や災害時の後方支援車両が停車できる空間を整備します。



日本最大級のヘリコプター(55名)

**⑧ 現地对策室用会議室【農家レストラン、研修室、スポーツ支援ショップ、地域振興施設内】**

- 広域支援部隊や救護班、ボランティア等が活動できる現地对策室として利用する計画とします。
- 要員が仮眠や着替えができる更衣室やシャワーを計画し、支援活動が長期化する場合に有効活用します。

**⑨ 非常用発電機・太陽光発電等**

- 非常時の電源確保のために、施設内に非常用電源設備を設けます。

**⑩ 災害用トイレ**

- 災害時にもトイレを利用できるよう整備します。

## 6

# 建設予定地・ゾーニング計画

### (1) 建設予定地と現状把握

計画地は、以下（航空写真）のとおり、北側に中部縦貫自動車道と国道158号があり、西側に旧蕨生小学校、南東部には田園風景が広がり、百名山に選ばれた荒島岳を望むことができます。



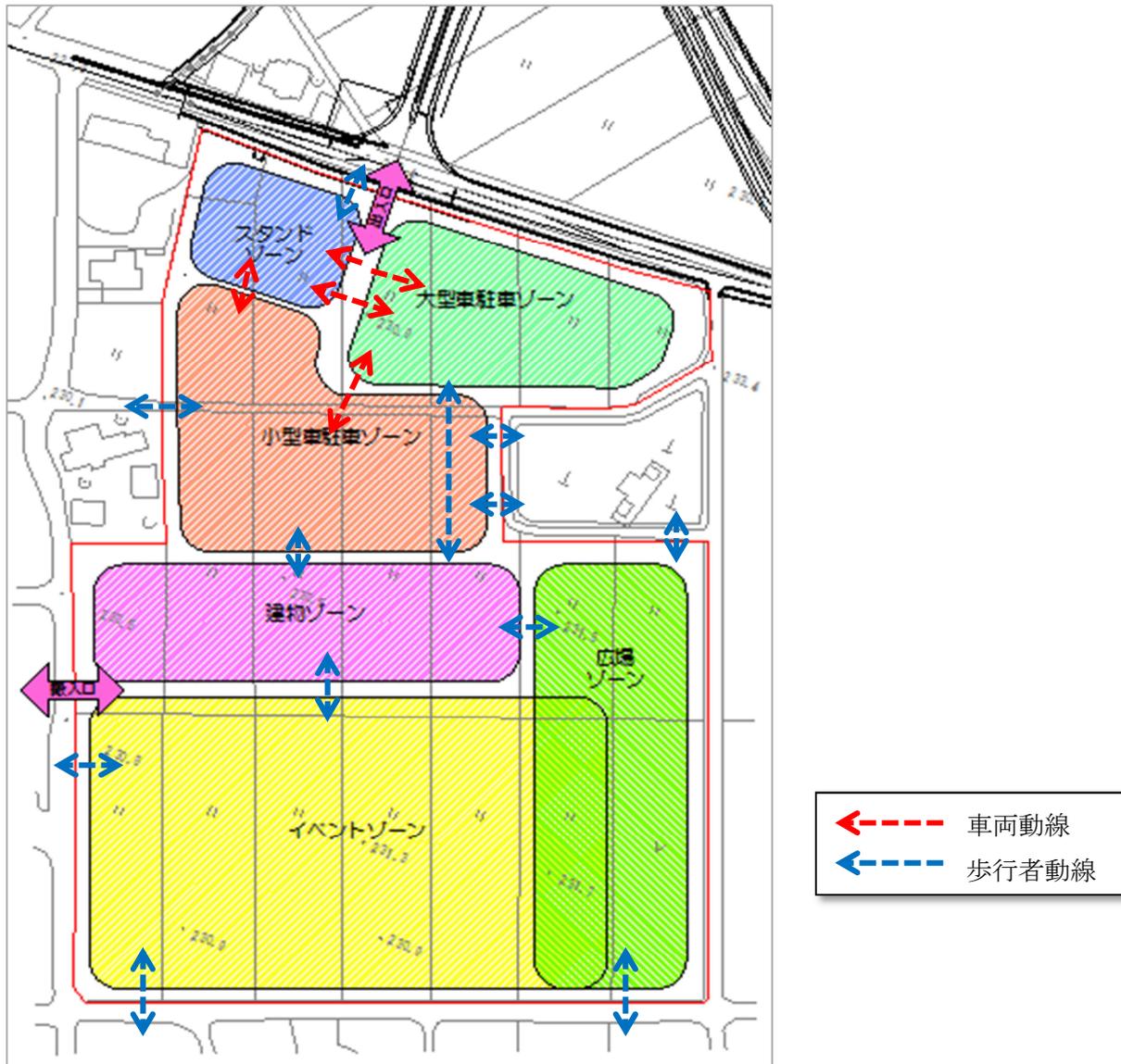
図表5 設置位置周辺の現状把握

(2) ゾーニング計画

道の駅「結の故郷」への車両及び歩行者の動線を考慮し、ゾーニングを計画します。

図表6 動線の考え方

対 象		動 線 の 考 え 方
車両 動線	施設外	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中部縦貫自動車からは、大野東インターチェンジランプからアクセスする</li> <li>・国道158号からは、交差点を利用してアクセスする</li> </ul>
	施設内	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小型車、大型車が交錯しないように車両動線を分離して計画する</li> </ul>
歩行者動線		<ul style="list-style-type: none"> <li>・駐車場内の車両は一方通行とし、駐車場内から各施設へ安全に出入りできるように横断歩道や歩道等を設け、歩行空間を明確にする</li> <li>・周辺地域住民等、歩行者でも利用しやすいように、国道158号から歩いてアクセスできるようにする</li> <li>・計画地の西側市道に出入り口を設け、レンタル自転車の利用動線及び旧蕨生小学校へのアクセス動線を確保する</li> </ul>

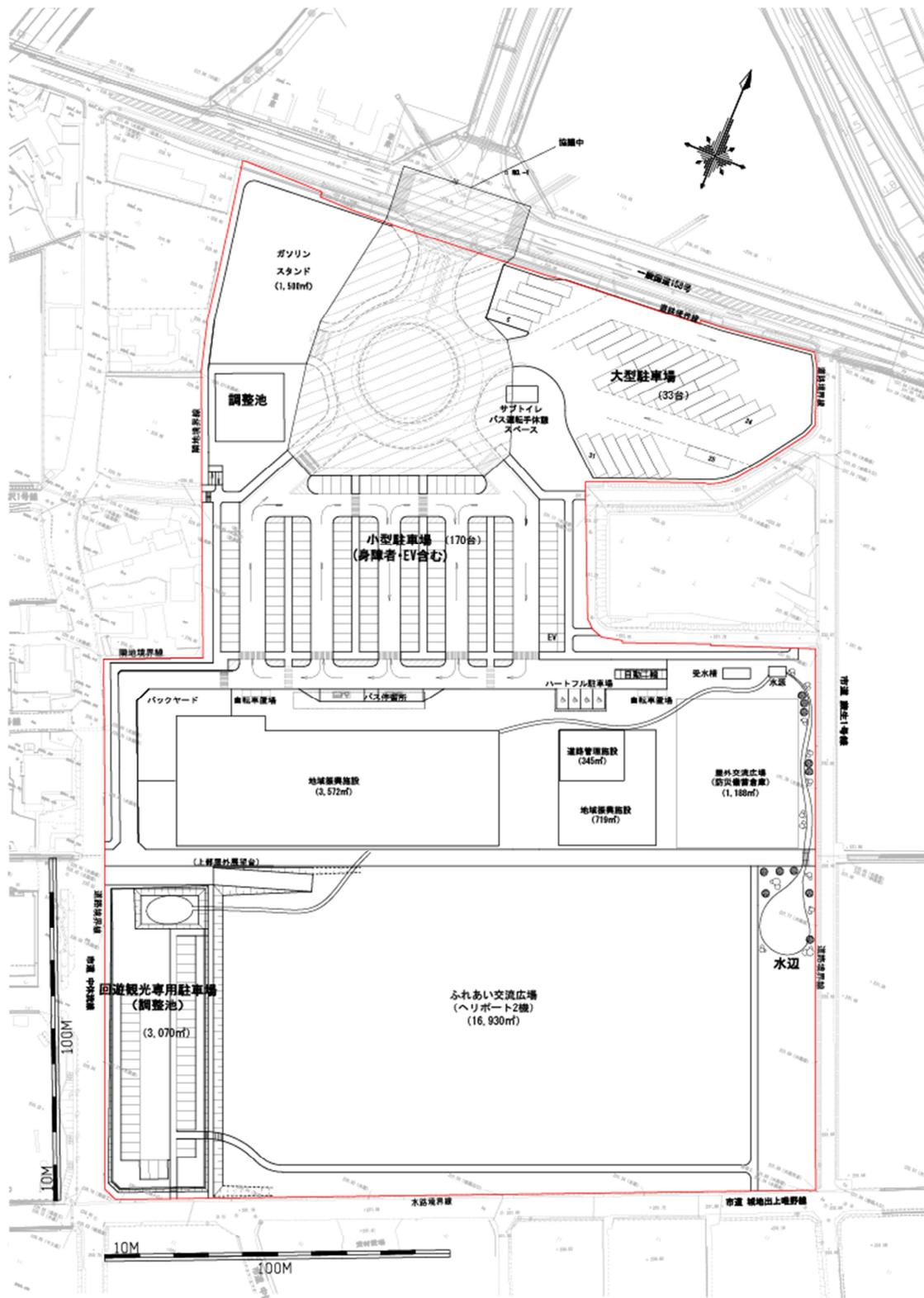


図表7 動線計画図

# 7

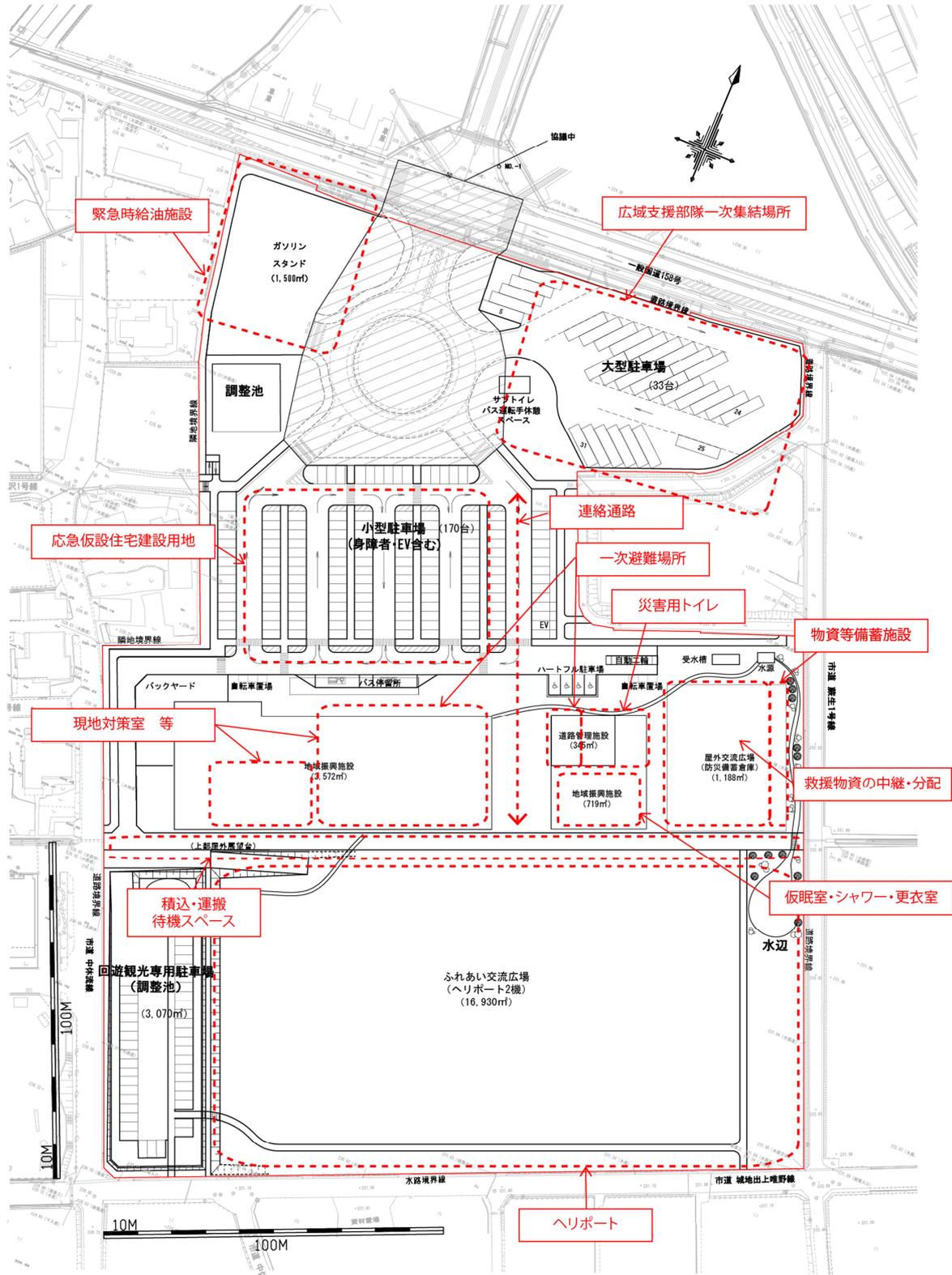
## 施設配置計画

施設配置の基本的な考え方及びゾーニング計画、動線計画を踏まえた施設配置計画図を以下に示します。



図表 8 施設配置計画図 (平常時)

平常時の施設配置計画は、災害発生した有事の際においても有効活用が図れる配置として考慮します。



図表9 施設配置計画図(有事)

## 8

## 空間計画・意匠計画

道の駅「結の故郷」の空間及び意匠については、「和」を感じ取れる、地域産の素材を多用したものとすることを基本とします。

広大な大空に聳える荒島岳等を、地域のシンボルや観光資源としてかけがえのない景観形成要素として捉え、この「和」文化を象徴する越前おおの「結の故郷」を楽しむことのできる空間・意匠計画とし、以下のコンセプトを設定します。

## 広大な大空と荒島岳の眺望と調和した空間・意匠

- ・広大な大空と荒島岳の眺望を活かし、地域の景観、眺望に配慮した計画とします。
- ・周辺道路からのシークエンス景観<sup>※1</sup>に配慮し、視認性の優れた計画とします。

## 自然環境を取り込んだ空間・意匠

- ・施設からの眺望に周辺の自然景観を取り込み、親水空間等の豊かな自然環境の中でくつろげる計画とします。
- ・施設は地域の個性を持たせ、地域産の素材を有効に活用することを基本とし、経済性や耐久性、メンテナンス性に優れた計画とします。
- ・再生可能エネルギーの積極的活用と有効活用に努めます。

## 移動しやすく楽しめる空間・意匠

- ・利用しやすい施設レイアウトとし、快適に滞留や回遊ができる計画とします。
- ・屋外でも屋根付きイベント空間を設け、天候に左右されない賑わいと活気ある活動ができる計画とします。
- ・誰でも安全で安心して楽しく利用できるユニバーサルデザイン<sup>※2</sup>とします。
- ・周辺の眺望を楽しめる空間を確保します。
- ・道の駅利用者の動線に配慮した配置計画とします。

## 可変性のある空間計画

- ・建物内部は移動可能な間仕切り等で計画し、可変性を有する空間とします。
- ・防災拠点としても機能できるよう、平常時と災害時のいずれにも対応できる空間とします。

## 冬季環境に配慮した空間計画

- ・冬季の積雪等に配慮した施設計画とします。
- ・屋根からの落雪等による第三者被害の防止や堆雪に配慮した計画とします。

## モニュメントとなる建築

- ・大空と荒島岳の景観に配慮しつつ、遠方からでも道の駅「結の故郷」が認識できるよう、特に夜間は施設の光が外にもれるような構造を検討します。

※1 シークエンス景観：走行する車両から見る景観

※2 ユニバーサルデザイン：文化・言語・国籍の違い、老若男女といった差異、障害・能力の如何を問わずに利用することができる施設・製品・情報の設計

## 9

## 管理運営の基本方針

## (1) 管理運営の基本方針

道の駅「結の故郷」では、道路利用者の利便性向上と、地域の活性化につながる管理運営に取り組みます。利用者の満足度を得るために、サービスの質の向上や、美観や清潔さを維持します。さらに、「ここにしかない」道の駅とするための地域の独自性や、地域ならではの商品や空間づくりにも取り組みます。

こうした背景を踏まえ、誰もが利用しやすい場にするとともに、地域内外の交流・連携を図り、「おもてなし」を重視した管理運営を推進します。

## ■ 誰もが立寄りたくなる「おもてなしの道の駅」とします

- ・利用者に「おもてなし」を提供します。
- ・いつでもだれでも利用できる、くつろげる場を提供します。
- ・利用者が憩い、安らぐ空間を提供するため、行き届いた清掃やごみの削減等、清潔で美しい施設として維持します。

## ■ 地域を周遊するきっかけの「まちの顔・案内人」となります

- ・道の駅「結の故郷」や地域との連携により、地域を周遊して楽しんでもらい、まちのリピーターづくりに寄与する道の駅とします。
- ・道路利用者に対する交通情報、観光客に対する地域情報等、タイムリーに必要な情報を提供します。
- ・地域内や地域間、道の駅間と連携したイベント等を企画します。
- ・コンシェルジュ（案内人）の配置により、丁寧できめ細やかな対応をします。

## ■ 地域の人を使いやすく、やりたいことができる「地域のための道の駅」とします

- ・地域の住民や物（特産物）、情報が集まる仕組みづくりを目指します。
- ・地域交流スペースやイベントスペース等を利用して、地域住民の活動・活躍の場を提供するとともに、イベント開催等のにぎわいづくりに寄与します。
- ・地域や利用者のニーズに合わせて対応します。

## ■ 周辺地区だけでなく、市全体の人とまちを元気にする「地域に還元する道の駅」とします

- ・大野市全域の地域産業の振興や新規雇用に寄与するため、地産地消を推進し、農林産物や加工品、オリジナルメニューを提供します。
- ・新たな商品開発等に取り組みます。
- ・移住や定住に関する情報を提供します。

## (2) 管理運営手法

公共施設の管理運営手法は、以下のとおり、市が直接管理する方法（公設公営）、指定管理者により管理する方法（公設民営）、施設の建設から運営まで民間事業者が行い管理する方法（民設民営）があります。

今後は、最善の管理運営手法を決定します。

図表 10 管理運営手法

分類	手法
公設公営	市において直接管理運営を行う方法 トイレの維持管理や販売施設の運営等、施設ごとに業務委託またはテナント方式をとる場合が多い
公設民営	施設全体の管理運営を公共団体または民間事業者等に委ねる方法 販売施設等はテナント方式による場合もある
民設民営	施設の建設から運営までを民間事業者が行う方法

# 10 整備の基本方針

## (1) 道路管理者と大野市との役割分担

本事業は、道路管理者と大野市が共同で整備する「一体型」の道の駅として整備を進める管理・運営方針を実現できる形態を、今後決定していきます。

以下に、「一体型」で整備する場合の導入施設別の整備主体(案)を示します。

図表 1 1 導入予定施設別の想定される整備主体(案)

導入施設		想定される整備主体	
		道路管理者	大野市
休憩機能	駐車場	○	○
	トイレ	○	○
情報発信機能	休憩スペース・情報発信施設	○	○
地域振興機能	特産物等販売施設	農林産物直売所	○
		加工工房・加工品販売所	○
		特産物販売所	○
		チャレンジショップ	○
	飲食施設	農家レストラン	○
		軽飲食販売所	○
	結の故郷体験館・観光案内施設	観光・ツアー案内所	○
		文化伝承・体験施設	○
	地域交流施設	研修施設	○
	イベントスペース	屋内交流広場	○
		屋外交流広場	○
		貯雪施設 (雪室・雪氷熱利用)	○
		ふれあい交流広場	○
	スポーツ振興施設	スポーツ支援ショップ	○
	ガソリンスタンド		○
観光周遊促進機能	シャトルバス等停留所		○
	レンタサイクル		○
防災機能※	地域住民・道路利用者等の 一時避難・受入施設	○	○
	一時避難・受入施設	○	○
	応急仮設住宅の建設用地	○	○
	広域支援部隊の一次集結	○	
	緊急給油施設		○
	救援物資の中継・分配スペース		○
	物資等の備蓄施設		○
	ヘリポート		○
	現地対策室用会議室		○
	非常用発電機・太陽光発電等		○
災害用トイレ	○	○	

※ 防災機能については、各機能を有効に活用します。

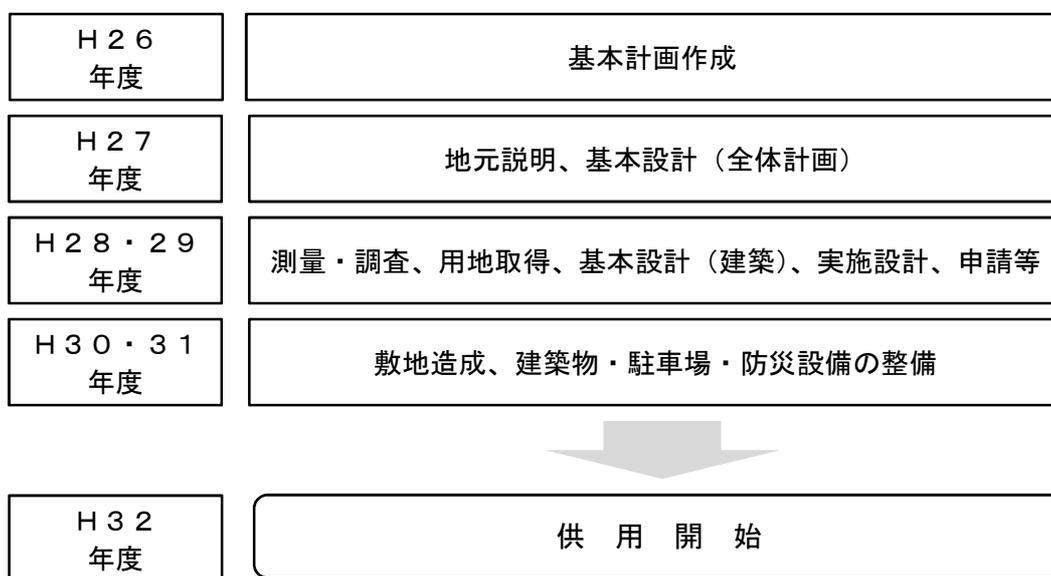
## (2) 概算事業費

道の駅「結の故郷」の整備における設計・建設等の概算事業費は、約 30 億円（用地費含む）を見込んでいます。

なお、財源については、積極的に国や県の支援メニューを活用します。

## (3) 事業スケジュール

道の駅「結の故郷」は、大野市が主体となり、中部縦貫自動車道の県内区間の整備に併せ、関係機関との連携により、平成 32 年度の供用を目指し、以下の事業スケジュールで計画的に進めます。



図表 1 2 整備スケジュール

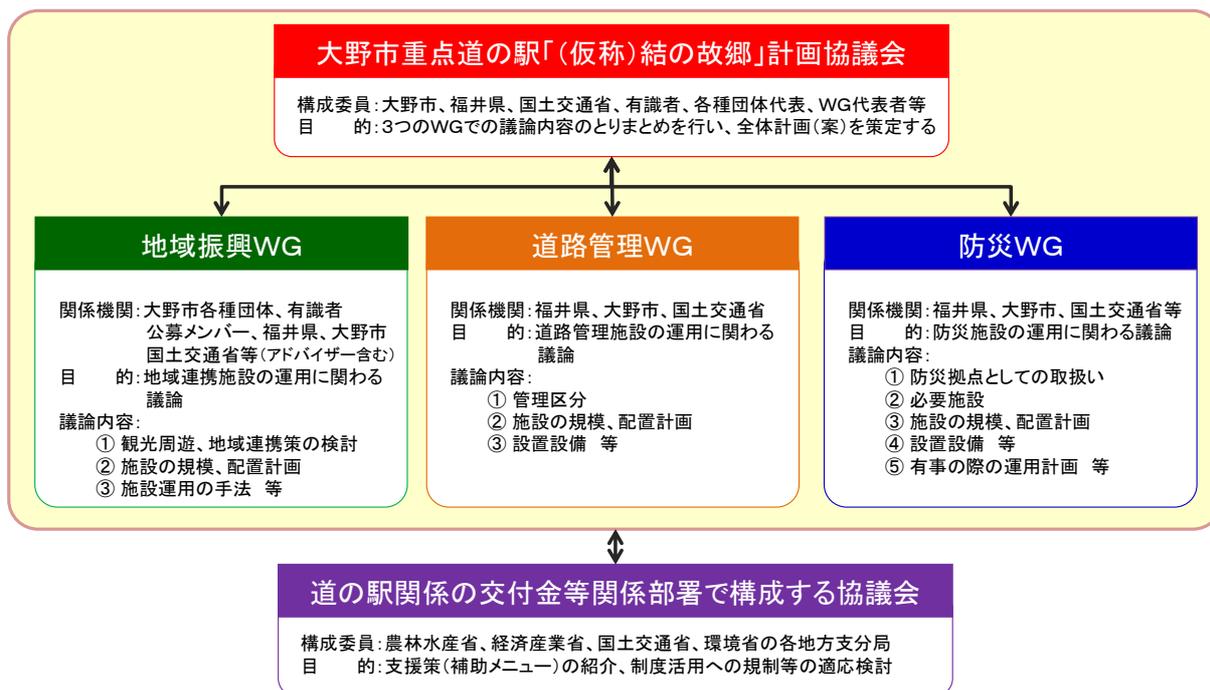
# 参考資料

## 全体計画の策定の経緯等

### (1) 検討経緯

平成 27 年	1 月	30 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国土交通省「重点「道の駅」の選定について」を公表</li> <li>・大野市が重点「道の駅」として全 35 箇所の一つとして選定</li> </ul>
	2 月	26 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重点「道の駅」選定証授与式</li> </ul>
	7 月	23 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回 大野市重点道の駅「(仮称)結の故郷」計画協議会及び各WG顔合わせ会を開催</li> </ul>
	8 月	3・4 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先進事例調査(道の駅の先進地への視察) ※道の駅「川場田園プラザ」「あおき」「あらい」</li> </ul>
	8 月	11 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演会、第1回 地域振興WGを開催</li> </ul>
		12 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回 道路管理WG、第1回 防災WGを開催</li> </ul>
	9 月	24 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回 道路管理WG、第2回 防災WGを開催</li> </ul>
		25 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回 地域振興WGを開催</li> </ul>
	10 月	16 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回 地域振興WGを開催</li> </ul>
	11 月	10 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先進事例調査(道の駅の先進地への視察) ※道の駅「但馬のまほろば」「京丹波 味夢の里」</li> </ul>
	平成 28 年	1 月	12 日
21 日			<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回 大野市重点道の駅「(仮称)結の故郷」計画協議会を開催</li> </ul>
1 月		29 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体計画(素案)のパブリックコメント実施(～2月12日) ※20人、30件の意見等</li> </ul>
2 月		9 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回 防災WG、第4回 道路管理WGを開催</li> </ul>
		10 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4回 地域振興WGを開催</li> </ul>
		24 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第5回 地域振興WGを開催</li> </ul>
		25 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第5回 道路管理WGを開催</li> </ul>
2 月		26 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4回 防災WGを開催</li> </ul>
		28 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回 大野市重点道の駅「(仮称)結の故郷」計画協議会を開催</li> </ul>
5 月		2 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・庁議 大野市重点道の駅「(仮称)結の故郷」全体計画(案)について</li> </ul>

## (2) 大野市重点道の駅「(仮称)結の故郷」計画協議会構成



## (3) 大野市重点道の駅「(仮称)結の故郷」計画協議会 委員及びワーキンググループメンバー

## ●協議会 委員

敬称略 順不同

No	氏名	所属及び役職名	備考
1	野嶋 慎二	福井大学 工学部建築建設工学科 教授	委員長
2	川本 義海	福井大学 大学院工学研究科 准教授	副委員長
3	安間 勝也	大野市区長連合会 会長	
4	城地 諭	富田地区区長会 会長	
5	新井 俊成	一般社団法人 大野市観光協会 会長	
6	松田 義一	テラル越前農業協同組合 代表理事組合長	
7	稲山 幹夫	大野商工会議所 会頭	
8	嶋田 滋	大野市商店街振興組合連合会 理事長	
9	吉田 多輝子	ふわわの会 会長	
10	東 隆司	国土交通省 近畿地方整備局 道路部交通対策課長	
11	山岡 康伸	国土交通省 近畿地方整備局 九頭竜川ダム統合管理事務所長	
12	村上 隆一	陸上自衛隊 第14普通科連隊 第3課 第3中隊長	
13	川上 卓也	国土交通省 近畿地方整備局 福井河川国道事務所 副所長	
14	鈴木 祥弘	福井県 土木部 高規格道路推進課長	
15	坪川 利隆	福井県 安全環境部 危機対策・防災課長	
16	鰐淵 浩司	福井県 土木部 道路保全課長	
17	松尾 大輔	福井県 観光営業部 観光振興課長	
18	加藤 弘剛	福井県 農林水産部 食料産業振興課長	
19	眞柄 義夫	福井県 大野警察署長	第1回協議会、 第2回協議会
20	山田 誠司	福井県 大野警察署長	第3回協議会
21	田中 雄一郎	大野市 企画総務部長	
22	斉藤 嘉代	大野市 民生環境部長	
23	朝日 俊雄	大野市 産経建設部長	
24	小川 市右工門	大野市 教育委員会 事務局長	
25	高野 清彦	大野市 消防本部 消防長	

## ●防災WG メンバー

敬称略 順不同

No	氏名	所属及び役職名	備考
1	清水 悦朗	大野市 企画総務部 防災防犯課長	◎リーダー 第1回防災WG、 第2回防災WG
2	松本 邦章	大野市 企画総務部 防災防犯課長	◎リーダー 第3回防災WG、 第4回防災WG、 第5回防災WG
3	飯田 裕人	大野市 消防本部 総務課 総務グループ課長補佐	○サブリーダー
4	児玉 孝司	国土交通省 近畿地方整備局 福井河川国道事務所 防災課 保全対策官	
5	荒木 道男	国土交通省 近畿地方整備局 九頭竜川ダム総合管理事務所 真名川ダム管理支所長	
6	村上 隆一	陸上自衛隊 第14普通科連隊 第3課 第3中隊長	
7	古市 仁希	福井県 安全環境部 危機対策・防災課 主任	
8	西川 秀和	福井県 土木部 高規格道路推進課 主任	
9	甲 弘志	福井県 土木部 奥越土木事務所 道路課 大野東部・和泉グループ 主任	
10	高橋 剛志	福井県 大野警察署 警備課長	
11	藤田 学	大野市医師会 渡辺医院	

## ●道路管理WG メンバー

敬称略 順不同

No	氏名	所属及び役職名	備考
1	漆崎 正人	福井県 土木部 道路保全課 主任	◎リーダー
2	帰山 康一郎	大野市 産経建設部 建設整備課 企画主査	○サブリーダー
3	斎藤 哲也	国土交通省 近畿地方整備局 福井河川国道事務所 道路管理課 建設専門官	
4	西川 秀和	福井県 土木部 高規格道路推進課 主任	
5	甲 弘志	福井県 土木部 奥越土木事務所 道路課 大野東部・和泉グループ主任	

## ●地域振興WG メンバー

敬称略 順不同

No	氏名	所属及び役職名	備考
1	川本 義海	福井大学 大学院工学研究科 准教授	◎リーダー
2	巢守 和義	一般社団法人 大野市観光協会 副会長	○サブリーダー
3	城地 諭	蕨生区 蕨生区自治会 会長	
4	大葎原 盛夫	蕨生区 蕨生区自治会 副会長	
5	坂本 均	奥越前まんまるサイト 代表	
6	長谷川 敦俊	公益財団法人 福井県バス協会 理事	
7	橋本 恒夫	奥越ほやほやクラブ	
8	村中 宏美	一般財団法人 越前おおの農林楽舎 主任	
9	村下 利幸	テラル越前農業協同組合 販売流通課 係長	
10	中嶋 久美	テラル越前農業協同組合 女性部 フレッシュミズの会 会長	
11	森永 直樹	公益財団法人 大野青年会議所 副理事長	
12	松田 勉	大野商工会議所 事務理事	
13	帰山 康幸	一般公募	
14	中山 由美子	一般公募	
15	明石 泰正	一般公募	
16	宇野 純一	大野市 産経建設部 建設整備課 主事	
17	藤田 託也	大野市 民生環境部 上下水道課 主事	
18	宮村 友介	大野市 産経建設部 商工観光振興課 主事	

## (地域振興WG アドバイザー)

敬称略 順不同

No	氏名	所属及び役職名	備考
1	太田 衛司	国土交通省 近畿地方整備局 福井河川国道事務所 調査第二課長	
2	畑 憲治	国土交通省 中部運輸局 福井運輸支局 企画調整担当 主席運輸企画専門官	
3	岡田 英雄	国土交通省 中部運輸局 福井運輸支局 輸送・監査担当 主席運輸企画専門官	
4	酒井 淳一	農林水産省 北陸農政局 農村計画部 地域整備課 課長補佐	
5	加藤 泰明	環境省 中部地方環境事務所 環境対策課 課長補佐	
6	渡部 哲志	経済産業省 近畿経済産業局 産業部 流通・サービス産業課 課長補佐	
7	大野 貴也	経済産業省 近畿経済産業局 産業部 流通・サービス産業課 総括係長	
8	橋本 淳	経済産業省 近畿経済産業局 資源エネルギー環境部 エネルギー対策課	
9	漆崎 正人	福井県 土木部 道路保全課 主任	
10	西川 秀和	福井県 土木部 高規格道路推進課 主任	
11	坪田 浩司	福井県 観光営業部 観光振興課 主査	
12	上藤 正純	福井県 農林水産部 食料産業振興課 地産地消・流通グループ 総括主任	
13	池田 直美	福井県 奥越農林総合事務所 技術経営支援課 課長	
14	五十川 秀育	大野市 企画総務部 企画財政課企画主査	
15	長井 隆幸	大野市 産経建設部 商工観光振興課 企画主査	
16	山田 徹夫	大野市 産経建設部 農業林業振興課 農業振興グループ 課長補佐	
17	村上 一幸	大野市 産経建設部 建設整備課 計画グループ 課長補佐	

## ●事務局

No	氏名	所属及び役職名	備考
1	宇佐美 光博	国土交通省 福井河川国道事務所 事業対策官	
2	茶山 徹	国土交通省 福井河川国道事務所 調査第二課 専門官	
3	田中 治樹	国土交通省近畿地方整備局 福井河川国道事務所 工務第二課 技官	
4	伊戸 康清	福井県 土木部 高規格道路推進課 主任	
5	長谷川 哲夫	福井県 土木部 高規格道路推進課 中部縦貫自動車道用地対策室 主任	
6	末永 勝士	大野市 産経建設部 幹線道路課 道の駅推進室 課長兼室長	
7	佐藤 実	大野市 産経建設部 幹線道路課 道の駅推進室 主査	
8	酒井 律偉	大野市 産経建設部 幹線道路課 道の駅推進室 企画主査	
9	石田 知也	大野市 産経建設部 幹線道路課 道の駅推進室 主査	



撮影日時 : 平成 27 年 12 月 7 日撮影

撮影者 : 中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋株式会社

## **大野市重点道の駅「(仮称)結の故郷」**

### **全 体 計 画**

**平成 28 年 6 月**

**福井県大野市**

**大野市 産経建設部 幹線道路課 道の駅推進室**

**〒912-8666 福井県大野市天神町 1 番 1 号**

**TEL 0779-66-1111**